

増淵一高山で米国を1安打!!



日本ソフト

惜しくもサヨナラ負け

胸張れ銀

日刊スポーツ

NIKKAN SPORTS

9月26日
火曜日
2000年
(平成12年)
PM10:30

日本ソフトボールが大健闘で銀メダルを獲得した。8連勝と無敵の強さで進出した決勝で米国と対決。宇津木麗華(37#日立高崎)の弾丸アーチで4回に1点を先制し、金メダルはすぐそこまでできていた。しかし連投ながら好投を続けていた増淵まり子(20#東京女体大)が5回、1安打で1点を奪われ同点。試合は1-1のまま延長に突入。6回から登板していた大魔神・高山樹里(23#豊田自動織機)が8回に2四球から、1死一、二塁のピンチを迎えた。ここで米国の2番バグが打ち上げた飛球を、左翼手の小関しおり(28#日立高崎)がグラブに納めながらサヨナラのホームを踏まれ、惜しくも金メダル獲得はならなかった。

シドニー五輪



試合終了後、外野スタンドの応援に応える日本ナイン。表彰式で銀メダルを胸にするとようやく笑顔が戻った(左上)。そして宇津木監督を胴上げ(右上)。日本チームの大健闘にスタンドからは大きな拍手が送られた。